

小中学生が利用しているインターネットサービスの類型化

- 水野 一成 (株式会社N T Tドコモ モバイル社会研究所)
- 近藤 勢津子 (株式会社N T Tドコモ モバイル社会研究所)
- 吉良 文夫 (株式会社N T Tドコモ モバイル社会研究所)

小中学生が安心、安全にICTを活用する
GIGAスクール構想の促進と課題の洗い出し

回数	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目
時期	2018年11月	2019年11月	2020年11月	2021年11月	2022年11月	2023年11月	2024年11月
サンプル数	500	1000	1100	500	600	600	1300
方式	訪問留置	訪問留置	訪問留置	訪問留置	訪問留置	訪問留置	訪問留置
対象	関東	全国	全国	関東	関東	関東	全国

調査時期	2023.11
調査方法	訪問留置調査法
調査対象	関東1都6県 小中学生の親と子
標本抽出方法	QUOTA SAMPLING 性別・学年・都市規模で割付
サンプル数	600

目的

小中学生が利用しているインターネットサービスの類型化

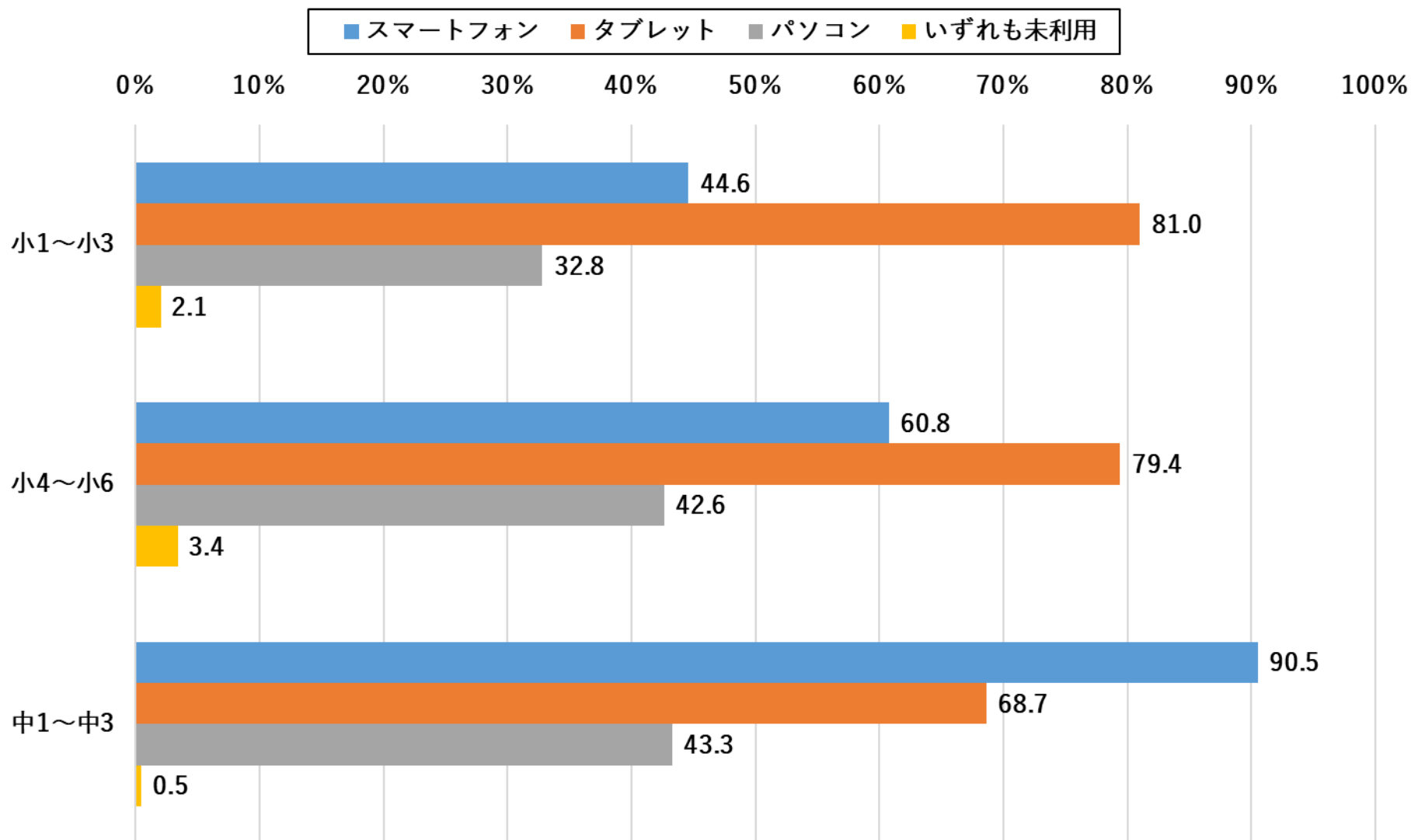
調査概要

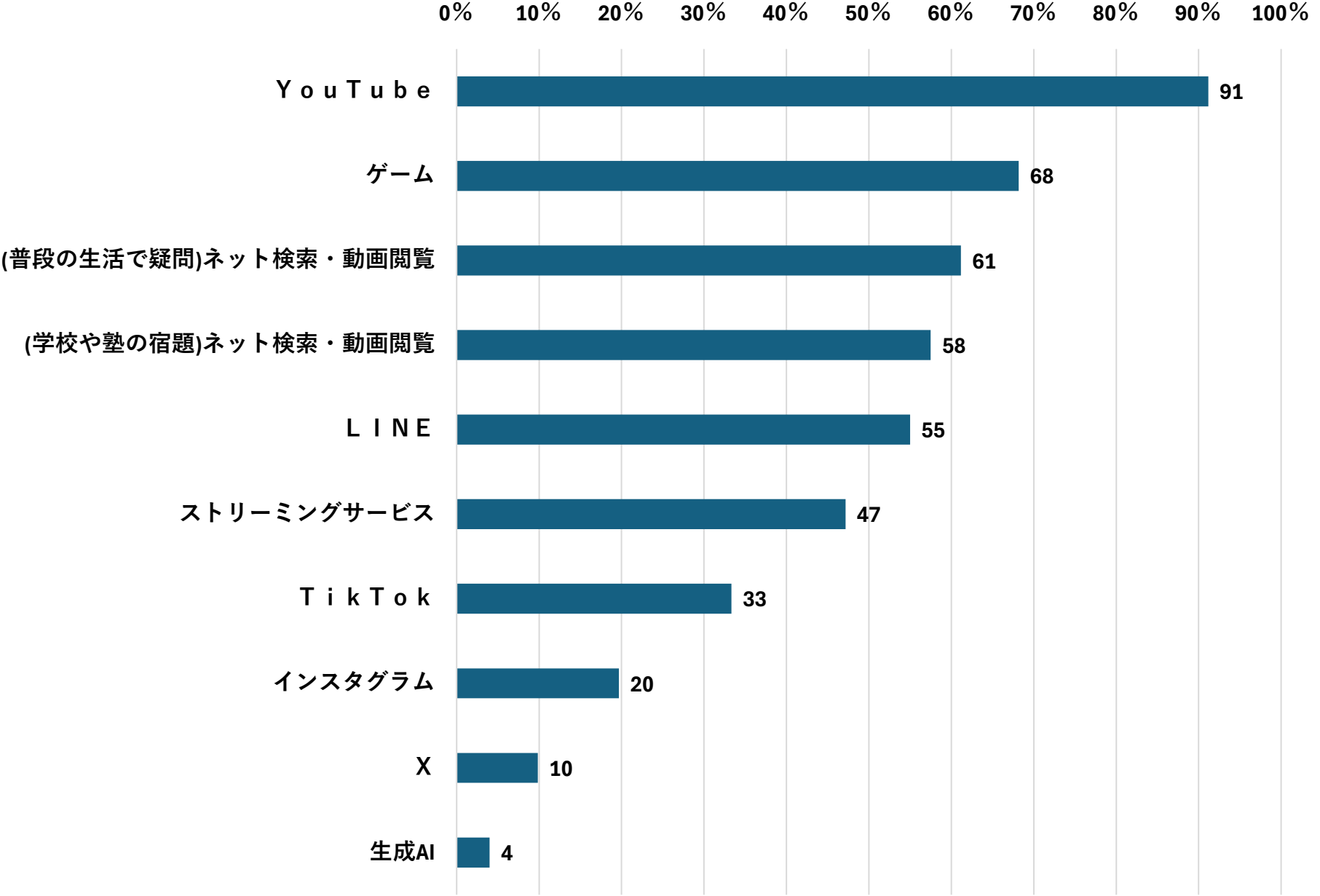
調査時期	2023.11
調査方法	訪問留置法
調査対象	関東 小中学生の親子
標本抽出方法	QUOTA SAMPLING 性別・学年・地域・都市規模で割付
回答数	600

分析方法

数量化理論第Ⅲ類

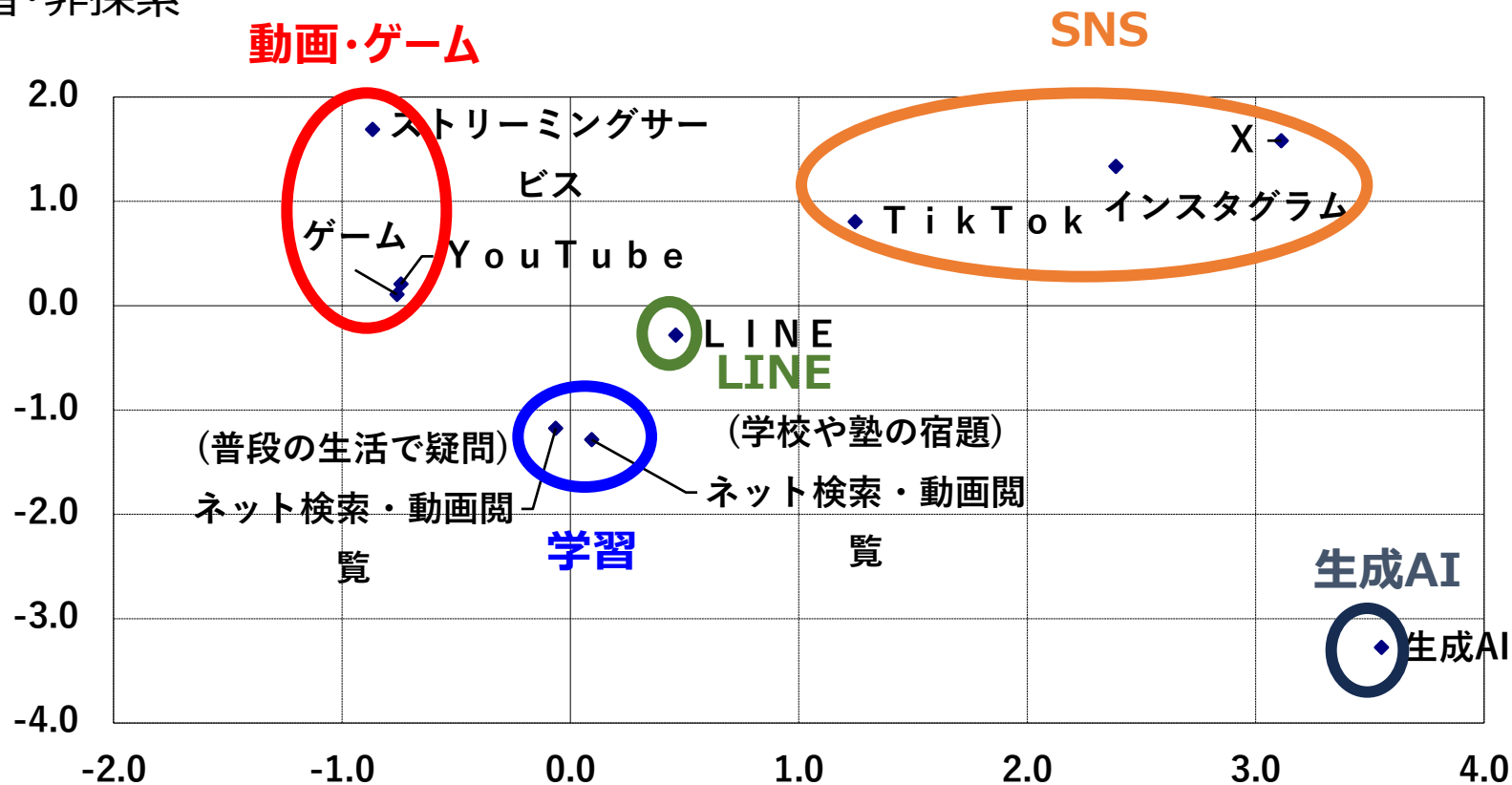
情報機器のいずれも利用していない割合は4%未満





2軸

非学習・非探索

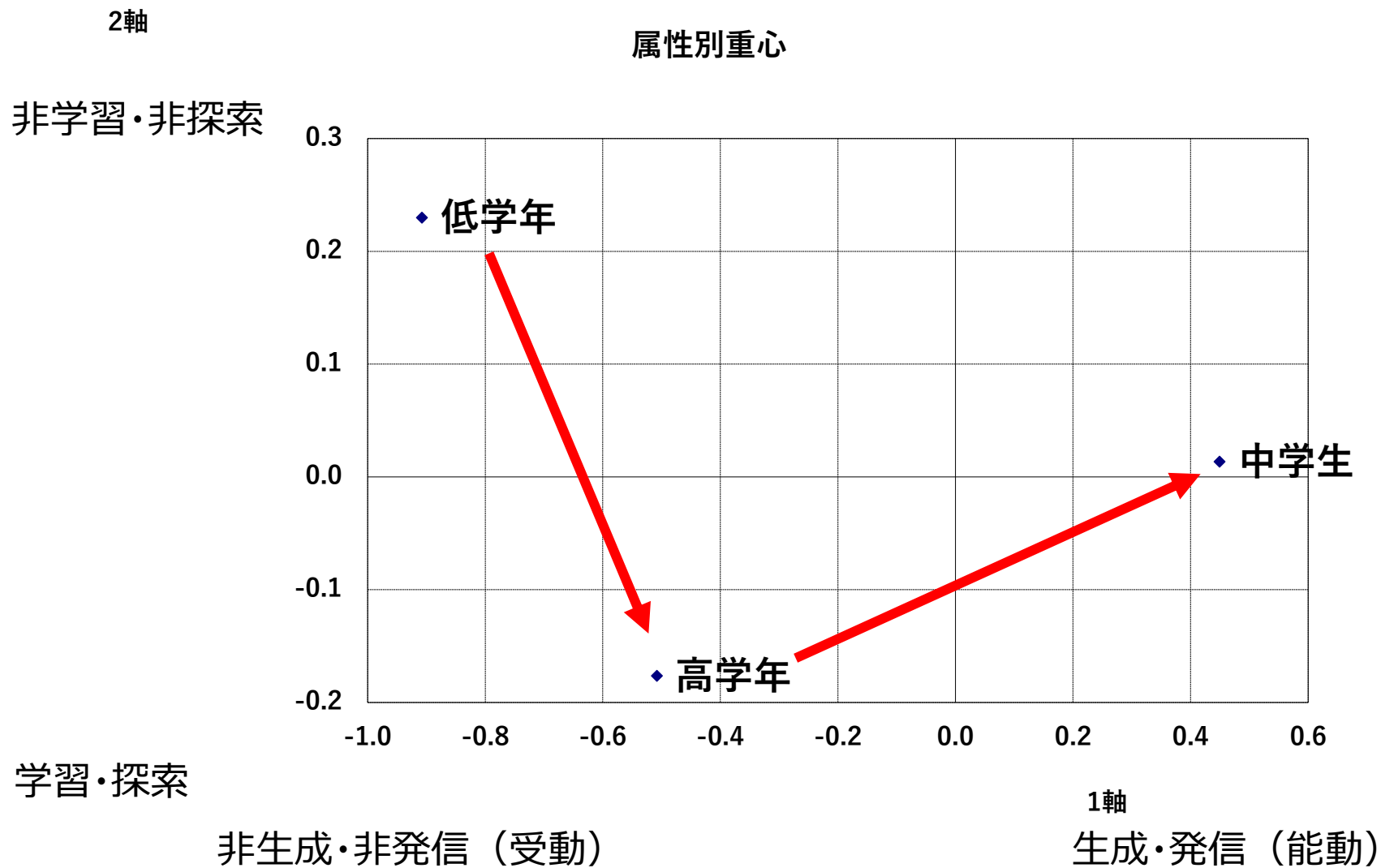


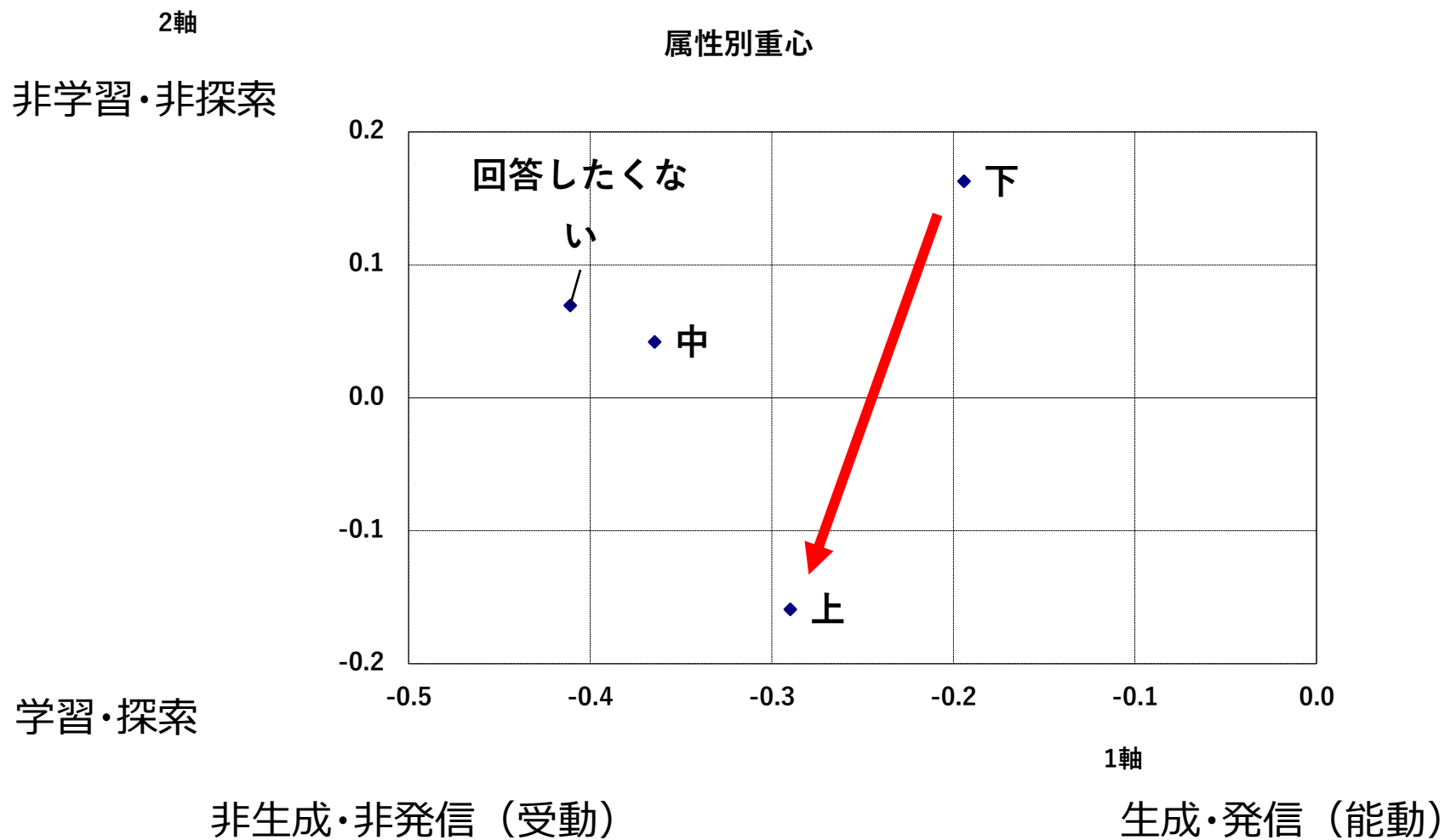
学習・探索

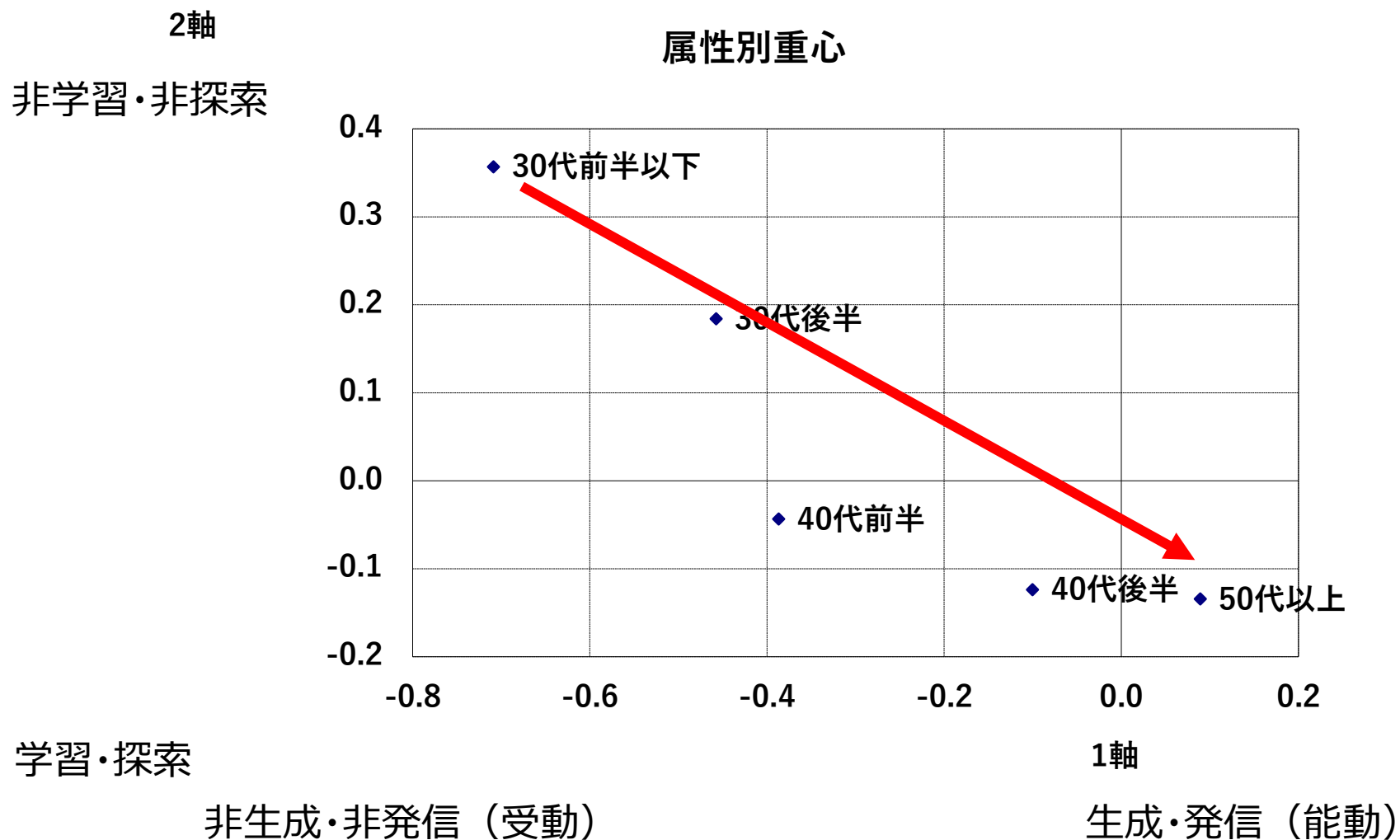
1軸

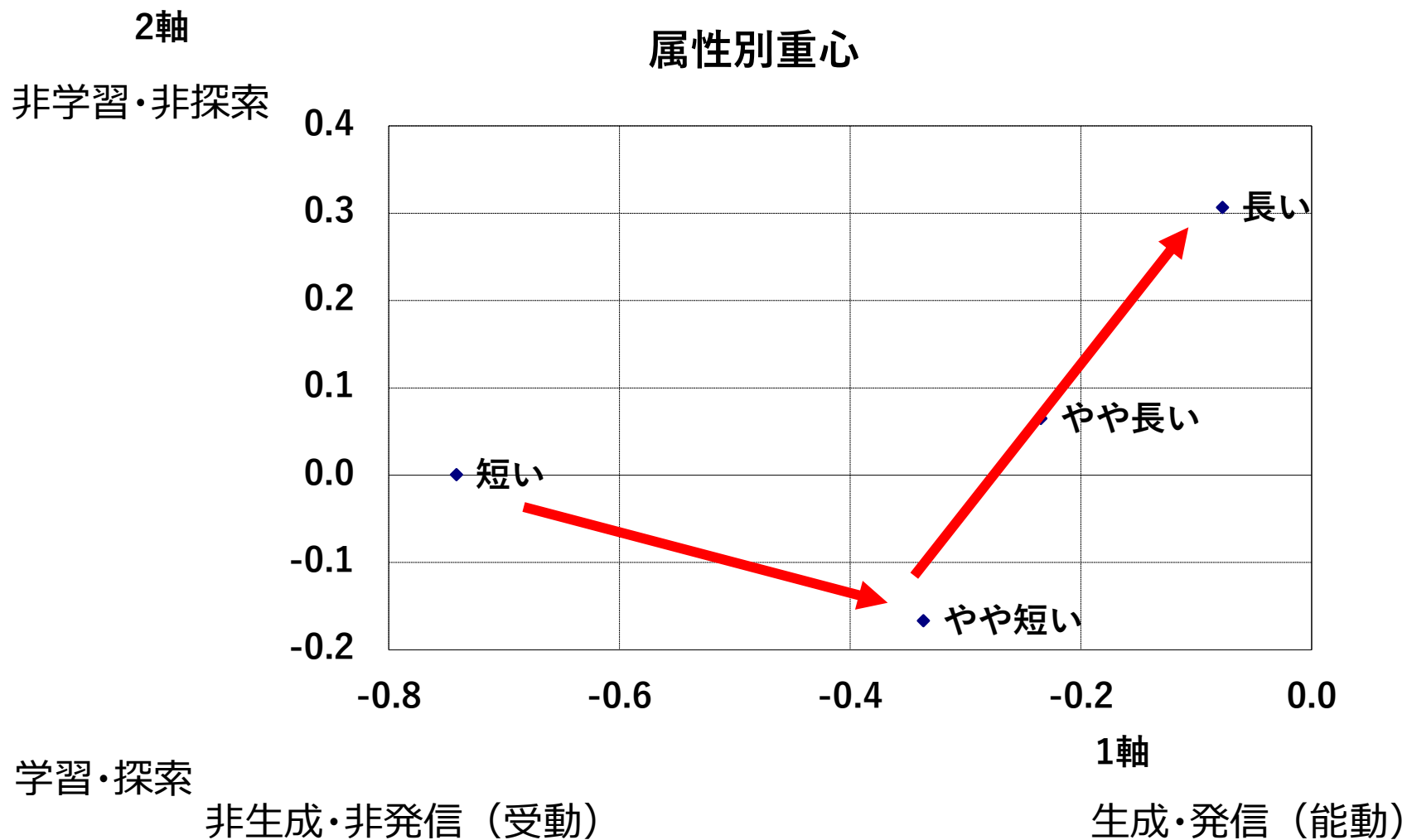
非生成・非発信（受動）

生成・発信（能動）









類型化

軸：生成・発信 学習・探索

生成・発信 学習・探索

生成AI

非生成・非発信 学習・探索

学習

平均

LINE

生成・非発信 非学習・非探索

動画・ゲーム

非生成・非発信 非学習・非探索

SNS

属性**学年が上がると
親の年齢が高いと**

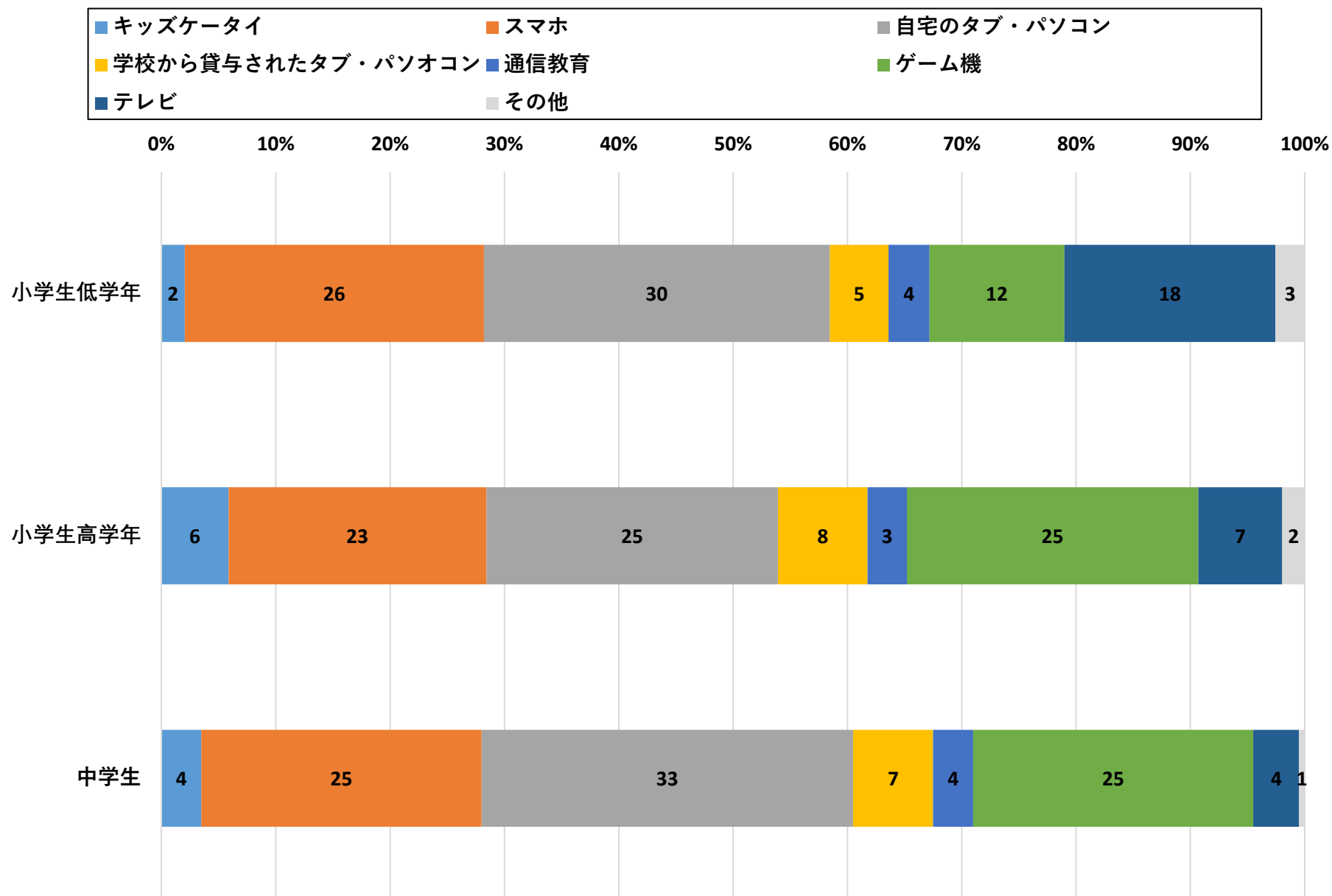
非生成・非発信 非学習・非探索→生成・発信 学習・探索

成績が上位だと

非学習・非探索→学習・探索

ネット時間が長いと

非生成・非発信 学習・探索→生成・発信 非学習・非探索



- ◆自由で独立した立場から、モバイルICTがもたらす「光」と「影」の両面を広く解明するために2004年に設立
- ◆モバイル・コミュニケーションの現在および将来への社会・文化的影響を研究・分析して成果を発信

【主な研究テーマ】

経年変化を把握するため2010年から毎年実施しているモバイル動向調査(基礎調査)に加え、時流に合わせた個別調査を実施

光の伸張

モバイル動向(基礎調査)

<経年変化:2010年~>

ニューノーマル

子どものICT

スマホ利用者意識調査

SNS

健康とICT

シニアのICT

防災・減災のICT

情報発信

影の縮小

【研究成果の発信】

<モバイル社会白書2024>

データで読み解くモバイル利用トレンド2024-2025

データで読み解く
モバイル利用トレンド
2024-2025
モバイル社会白書

株式会社NTTコムモバイル社会研究所

連携

(書籍・電子書籍)

<モバイル社会研究所HP>

<https://www.moba-ken.jp>



(レポート発表)

<各種学会発表>

連携

メディア掲載・データ引用・意見交換会等